

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	民法 I	
科目基礎情報							
科目番号	0129			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	永田眞三郎・松本恒雄・松岡久和・横山美夏『民法入門・総則 第5版補訂版』有斐閣(2023年)						
担当教員	松原 義弘						
到達目標							
1. 民法の基本原則を理解し、説明できる。 2. 私権の主体と客体、行為能力について説明できる。 3. 法律行為と意思表示、自由と制約について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	民法の基本原則を正しく理解し、詳細に説明できる。			民法の基本原則を理解し、説明できる。		民法の基本原則を理解できず、説明できない。	
評価項目2	私権の主体と客体、行為能力について正しく理解し、具体的に説明できる。			私権の主体と客体、行為能力について説明できる。		私権の主体と客体、行為能力について説明できない。	
評価項目3	法律行為と意思表示、自由と制約について正しく理解し、具体的に説明できる。			法律行為と意思表示、自由と制約について説明できる。		法律行為と意思表示、自由と制約について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	学習目標（授業のねらい） 民法総則を中心に学び、基礎的な内容の習得をめざす。実際の法的諸問題を事例研究として学び、法的素養や法的思考といったリーガルマインドを涵養したい。						
授業の進め方・方法	講義形式。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 （授業外学習・事前）授業内容を予習しておく。 （授業外学習・事後）授業内容を復習し、重要事項をノート等にまとめる。						
注意点	・試験の成績を100%として評価する。内訳は中間試験（50%）、期末試験（50%）とする。 ・評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を60点とする。評価方法及び評価基準は本試験に準じる。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		・授業のねらい・進め方・評価方法等を知る。 ・社会生活と法についての概要を説明できる。		
		2週	民法の基礎知識		法学の全体像と民法の守備範囲、民法のシステムと構造について説明できる。		
		3週	民法の基本原則		民法の4つの基本原則について説明できる。		
		4週	私権		社会関係・法律関係と権利義務、私権の分類、私権行使についての原則について説明できる。		
		5週	人		自然人の概念、権利能力、意思能力、行為能力について説明できる。		
		6週	法人①		法人の概念、法人制度の位置づけ、法人の取引行為、社団法人・財団法人・株式会社の設立、株主の権利・義務、取締役の義務・責任について説明できる。		
		7週	法人②		社団法人・財団法人・株式会社の機関と役割、法人の能力と取引行為、法人の不法行為、法人の消滅、企業再編の種類と手続について説明できる。		
		8週	中間試験		第1～7週の学習内容の理解度を測る。		
	2ndQ	9週	物		主権の客体である物、物の分類について説明できる。		
		10週	法律行為と意思表示①		法律行為と意思表示の関係について説明できる。		
		11週	法律行為と意思表示②		意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈について説明できる。		
		12週	法律行為と意思表示③		不完全な意思表示、自由な意思の形成が妨げられた意思表示について説明できる。		
		13週	法律行為の自由と制約①		実現可能性、適法性について説明できる。		
		14週	法律行為の自由と制約②		社会的妥当性、公序良俗について説明できる。		
		15週	期末試験		第9～14週の学習内容の理解度を測る。		
		16週	成績評価・確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	40	0	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0